



Data

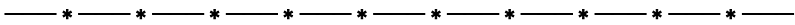
監督: チャド・スタエルスキ
 出演: キアヌ・リーブス / ハル・ベリー / ローレンス・フィッシュ伯恩 / マーク・ダカスコス / エイジア・ケイト・ディロン / ランス・レディック / アンジェリカ・ヒューストン / サイード・タグマウイ

👁️👁️ みどころ

第1作で新たな柔術「ガン・フー」を駆使したキアヌ・リーブスが、人気シリーズとして定着した第3作では、「カー・フー」「ナイ・フー」「馬フー」「犬フー」等で大活躍！単なるロシアンマフィアではなく、「主席連合」を中心とし、コンチネンタル・ホテルを根城とした悪のネットワークの組織力と総合力、それに伴う多種多様なキャラの登場も第3作の魅力だ。

切れ目なく次々と登場する“見せ場”に大興奮しながら、ジョン・ウィックのタフな格闘能力を楽しみたい。

もちろん、結果はハッピーエンド。それはそれでOKだが、そうになると、次の新たなテーマが！さあ、今からシリーズ第4作を楽しみに。



■□■ シリーズ化が大成功！第3作のテーマは？ ■□■

キアヌ・リーブス主演の『ジョン・ウィック』(14年) (『シネマ 37』77頁) は、『マトリックス』シリーズで名をはせたキアヌ・リーブスが新たな柔術「ガン・フー」をひっさげて「完全復活！」を目指したもの。私は、同作の評論で、「ストーリーは単純な復讐劇だし、その動機の物語はイマイチだが、伝説の殺し屋として復活した後に彼が見せる『男の美学』に酔いしれたい。」と書いた。また、その最後には、「復讐完了後のラストの描き方は？」の小見出しで、「本作は復讐劇を遂げた後のラストの描き方についても、鶴田浩二、高倉健、高橋英樹らが主演した日本の(古典的な)ヤクザ映画に見る『ラストの美学』とは大きく異なることに注目！」と書いたが、これは、同作のシリーズ化を前提としないものだった。

ところが、同作出演当時に50歳だったキアヌ・リーブスのアクションのキレが大きな評判を呼んだ結果、第2作『ジョン・ウィック：チャプター2』がつくられ、同作も第1作の倍の成績を生み出したらしい（『シネマ40』未掲載）。そうすると、3匹目、4匹目のどじょうを狙うのは、今やハリウッド商法の鉄則だ。愛犬と愛車を奪ったロシアンマフィアを壊滅させた第1作も、血の＜誓印＞の掟によってふたたび修羅の世界に引き戻された第2作もともに復讐劇だったが、さて、第3作のテーマは？

コンチネンタル・ホテルは世界的ネットワークを誇る超一流ホテルチェーンだが、このシリーズでは何と、コンチネンタル・ホテルは裏社会の「聖域」らしい。本作冒頭では、シリーズ第2作で、そんな裏社会のルールを破って「聖域」コンチネンタル・ホテルで多くの人を殺したジョン・ウィックに対して、支配人ウィンストン（イアン・マクシェーン）が「追放処分」を言い渡すシーケンスが描かれる。これによって、ジョン・ウィックは猶予の1時間が過ぎれば1400万ドルの賞金をかけられ、街全体から狙われることになるらしいが、さて、彼はどうするの？

■■■裏社会の組織は複雑！主席連合とは？裁定人とは？■■■

裏社会を牛耳るヤクザやマフィアの組織は複雑。しかし、軍隊と同じで、その上下関係だけはハッキリしている。しかし、組織の離合集散や下克上も日常茶飯事だから、トップといえどもおちおち安心してはいられないのは当然だ。しかし、今の中国を見れば、習近平中国共産党総書記は国家主席と国家中央軍事委員会主席を兼任し、中国13億人民と中国共産党1億人の「トップ1」として君臨している。

独裁制と民主制のどちらがいいの？それは現在真剣に問われている論点だが、本作を観ていると、ジョン・ウィックに対して追放処分を下したウィンストンの上には更に“主席連合”なるものがあるらしい。その実態はわからないが、「連合」という以上、主席は1人ではなく複数いるのだろう。また、本作では、その主席連合に仕える女裁定人（エイジア・ケイト・ディロン）が登場し、前半ではバワリー地区を拠点にホームレスを装った部下を街中に配して情報収集しているバワリー・キング（ローレンス・フィッシュバーン）に対して彼女の絶大な権力を見せつけるので、それに注目！

彼女がそんな絶大な権力を発揮できるのは、ひとえに「主席連合」をバックにしているためだ。そのため、本作後半ではジョン・ウィックに対して追放処分を宣告したウィンストンに対しても裁定人は1時間の猶予を与えたことを厳しく咎めるので、弁護士の私としてはその裁定の是非にも注目したい。「主席連合」のバックがあるため彼女の裁定は絶対らしいが、『ジョン・ウィック』シリーズにおけるさまざまな組織のあり方を見てみると、彼女の裁定の権力だけがあまりに突出して強すぎるのでは？したがって、ジョン・ウィックに銃と銃弾7発を与えてサンティエノ殺しに協力した罰として、7日後に王座を降りるよう命じる裁定に不服を唱えたバワリー・キングに対して「7回斬って殺せ」と命じる裁定

はいかにも不当？そんな横暴な裁定（？）によって、ニューヨーク・コンチネンタル・ホテルの支配人の座から降りよう命じられたウィンストンは、その裁定に従うの？

このように主席連合の組織は複雑だから、ひょっとしたらそこにジョン・ウィックがつけ込むスキがあるかも・・・。

■□■ガン・フーの他、カー・フー、ナイ・フー等々も！■□■

シリーズ第1作では、キアヌ・リーブスの新たな柔術「ガン・フー」が見ものだった。私はアクションものが大好きだから、ブルース・リーのそれも、ジャッキー・チェンのそれも、更には『チョコレート・ファイター』（08年）（『シネマ22』173頁）のそれも大好き。更に、『中国電影大観3』である『シネマ34』に収録した、『新少林寺』（11年）（472頁）、『イップ・マン 葉問』（10年）（479頁）、『グランド・マスター』（13年）（484頁）等の「中国特有の格闘家映画」も大好きだ。キアヌ・リーブスの「ガン・フー」は、それらに比べても全く遜色のない見事なアクション。私は50歳にしてこんなに華麗なアクション（＝ガン・フー）を繰り返せることができるキアヌ・リーブスの肉体的能力に感心していたが、シリーズ第3作となる本作では、おなじみの銃撃と格闘を組み合わせた“ガン・フー”の他、自動車を使った“カー・フー”、ナイフを使った“ナイ・フー”さらには馬を駆りながらの“馬フー”、犬と一緒に戦う“犬フー”、本を利用した“本フー”にまで進化しているので、それに注目！

もっとも、TVで放映されるオーソドックスなボクシングやレスリングの試合はもちろん、それ以外のK-1やRIZIN等さまざまな格闘技も一定の厳格なルールがあるし、異種格闘技戦もそれは同じ。しかし、本作のように1400万ドルの賞金をかけられて追放処分を受けたことによって、その命を狙われることになったジョン・ウィックに対しては、ルール無視の暗殺者が登場するのが当然で、それは仕方がない。そう思っていたが、とりわけバイクを駆りながらの「バイ・フー」（？）を観ていると、なぜかそこでは銃の乱射がなく、追う側も追われる側も刀を使っているから、映画製作の世界でも観客に魅せるアクションにするためには一定のルールがあるのかもしれない。

また本作では、『キャットウーマン』（04年）（『シネマ7』356頁）で華麗なるアクションを見せたハル・ベリーがソフィア役で、キアヌ・リーブスに負けじと華麗なるガン・フーを披露するのでそれにも注目。そこでは、銃をいくらぶっ放してもOKというルールらしいから、その発射量はすごい。さらにそこでは、ソフィアの愛犬（猛犬）の、「人馬一体」ならぬ「人犬一体」となった大活躍を見せるので、映画初の「犬・フー」も堪能したい。

■□■舞台は砂漠へ！その地はモロッコのカサブランカ！■□■

近時はイラン映画の『セールスマン』（16年）（『シネマ40』20頁）、トルコ映画の『雪の轍』（14年）（『シネマ36』124頁）、カナダ・フランス映画の『灼熱の魂』（10年）（『シ

ネマ 28』62 頁) 等、中東を舞台とした素晴らしい映画が次々に登場している。そんな近時の傾向を踏まえて (?), シリーズ第 3 作となる本作は後半の舞台を何とモロッコのカサブランカに設定している。カサブランカといえば、ハンフリー・ボガートとイングリッド・バーグマンが主演した映画『カサブランカ』(42 年) があまりにも有名だが、本作にはそれを連想させるものは全くなく、砂漠のシーンが登場するだけ。本作では、そこに「主席連合」の上に位置し、より大きな権威と権力を持つ唯一の人物という「首長」(サイド・タグマウイ) が、まるでイエス・キリストとそれを助ける神のような関係で (?) 登場するのでそれに注目!

この首長と会うまでにジョン・ウィックは前述したさまざまなアクションを体験しなければならなかったうえ、砂漠の中で死ぬほどの渴きを体験しなければならなかったが、それを体験したおかげでやっと会うことができた首長から、追放処分撤回と暗殺契約中止の可能性を提示されることに。その条件として提示された仕事は、友人でもあるウィンストンの殺害と、今後も主席連合の支配下で殺し屋として生きること。さあ、ジョン・ウィックはどうするの? もっとも、彼に今や選択の余地はないはず。しかして、シリーズ第 3 作のクライマックスは?

■□■愛犬との絆は? 友情は? 最後の決断は? ■□■

『ジョン・ウィック』シリーズでは犬の存在が大きく、また愛犬と人間との絆の強さが強調されている。そのため、追放処分を受けたジョン・ウィックが生き延びる術をさぐるについては、ひとまず第 1 作から飼い始めた愛犬のビッドブル(名前はまだない)をコンチネンタル・ホテルのウィンストンに預かってもらうことに。そして今、ウィンストンを殺害するべく、首長との約束に従ってニューヨークのコンチネンタル・ホテルに戻ってきたジョン・ウィックは愛犬との再会を果たしたが、ここからウィンストンの殺害に向かうの?

本作はアクションの要素や人間と愛犬との絆の要素のほか、さらに男同士の友情の要素もタップリつまっているから、安易にそういかないところが面白い。そして、物語をその方向に持っていくためには、主席連合と裁定人をトコトン悪者に仕立て上げるのが便利。そんな脚本作りの趣旨に従って、本作のクライマックスは、裁定人が雇った現役最強の殺し屋ゼロ(マーク・ダカスコス)とジョン・ウィックとの頂上決戦になっていくが、そこにたどりつくまでの、前述した裁定人によるパワリー・キングへの処分の他、裁定人によるウィンストンに対する処分(の可否)についても注目する必要がある。

ウィンストンを殺すためにコンチネンタル・ホテルに乗り込んだジョン・ウィックは、自分のせいでウィンストンが退任を求められたと聞き心が揺らいだのは当然。それは、ここで友のウィンストンを撃てば、自分の魂を売り渡すことになるわけだから。さあ、そこでの再度のジョン・ウィックの決断は?

■□■あの映画を彷彿！鏡張りの部屋は何かと刺激的！■□■

首長と約束した条件を守ってウィンストンを殺せば、自分のせいで退任を余儀なくされた友人を撃ち、魂を売ったことになる。そう考えたジョン・ウィックの最後の決断は、長年の友であるウィンストンと共に主席連合と戦うことだった。ここで意外だったのは、第1に意外にもウィンストン自身も主席連合とトコトン戦う意思を固めていたこと。第2にそれまで忠実なコンシェルジュにすぎないと思っていたシャロン（ランス・レディック）が、相当な戦う能力をもっていたことだ。そのため、主席連合から「聖域指定」を解除されたコンチネンタル・ホテルが、裁定人からコンチネンタル・ホテルに派遣された大量の襲撃部隊との壮絶な戦いの舞台になることに。さあ、そこでは、ジョン・ウィックとシャロンがいかにかガン・フーの技術を駆使してその襲撃部隊と戦うかに注目しよう。

ジョン・ウィックとシャロンのコンビが襲撃部隊を蹴散らした後は、ゼロとジョン・ウィックとの頂上決戦になる。そして、そのアクション頂上決戦の舞台は、ブルース・リーの『燃えよドラゴン』（73年）に登場した、あの「鏡の部屋」を彷彿とさせる部屋になるのでそれに注目！同作を観ても、あるいは別の方面の想像からも（？）、鏡の部屋でのアクションは何かと刺激的なので、アクションを売りとする本作のクライマックスでは、それをタップリ楽しみたい。

■□■この男は不死身？左手の中指に注目！■□■

コンチネンタル・ホテルで、シャロンと共にガン・フーの技術を駆使して戦った銃撃戦の後は、いよいよ鏡の部屋でのジョン・ウィックとゼロとの頂上決戦。しかし、そこでもメインイベントの前に、ゼロの2人の弟子との「前哨戦」があるので、まずはそれを楽しみたい。ちなみに、ゼロが普段は寿司職人でジョン・ウィックのファンだという設定や、彼の2人の弟子の名前がシノビ1、シノビ2という設定は、いかにも日本の忍者が大好きなクエンティン・タランティーノ監督流の設定になっているので、本作はそんな遊び心も楽しみたい。

それにしても、本作で恐れ入るのは、ここまですっと戦い続けているジョン・ウィックの体力。冒頭の追放処分によって殺し屋から狙われた彼は、命からがら親友のドクターの家に駆け込んで九死に一生を得たはずだが、その回復力はすごい。また、カサブランカの砂漠の中で、彼はほとんど死にかけていたはずだから、その回復力もすごい。さらに脅威的なのは、首長と前述の合意をするについて、日本のヤクザと同じように、左手の中指をつめる儀式まで余儀なくされたにもかかわらず、なお彼の格闘能力が健在なことだ。ちなみに、セルジオ・コルブッチ監督のマカロニ・ウェスタン『続・荒野の用心棒』（66年）では、フランコ・ネロ演じる主人公は、両手をボロボロに潰されながら巧みな計略と不自由な両手を巧みに使うことによって、悪党たちとの最後の決戦に勝利したが、ジョン・ウ

ウィックの場合は、右手は従前通りだから右手でのガン・フーはオーケー。しかし、ゼロとの頂上決戦は銃を封印した格闘戦だから、左手の中指のハンディキャップは大きいのでは？

そんな心配もあったが、鏡の間での2人の一進一退の戦いは、テレビで観るK-1やRIZINの試合以上に迫力満点。もちろん、K-1やRIZINの試合と違い、映画ではその勝敗が最初から決まっているのが玉にキズ(?)だが、そこでは映画ならではの演出をしっかりと楽しみたい。

しかして、傷つきながらもジョン・ウィックとウィンストン、シャロンの3人は愛犬と共に再び生きてその顔を見つめ合うことができたが、さて、主席連合はそこで引き下がるの?いやいや、そんなことはないはず。そう思っていると、案の定エンドロールと共にシリーズ第4作の予告が・・・。

2019 (令和元) 年10月25日記